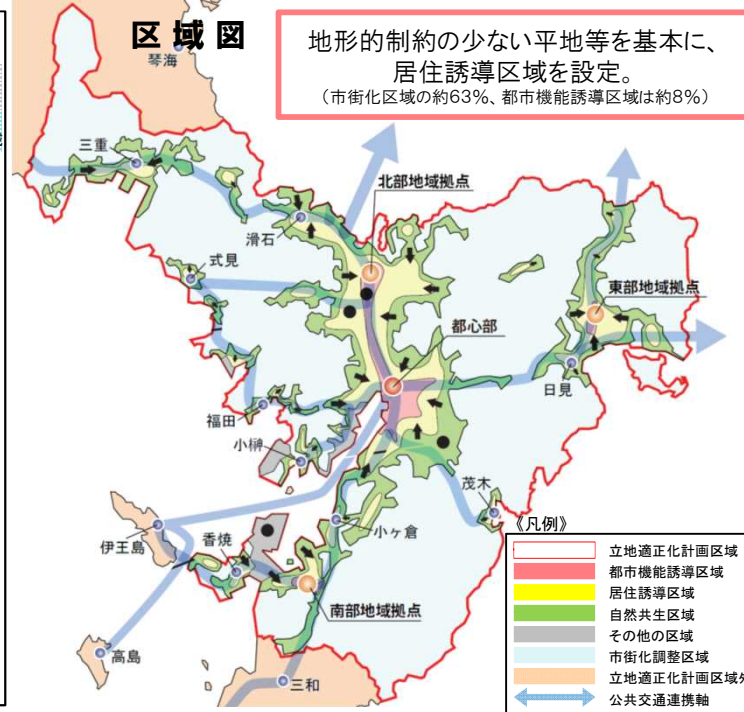
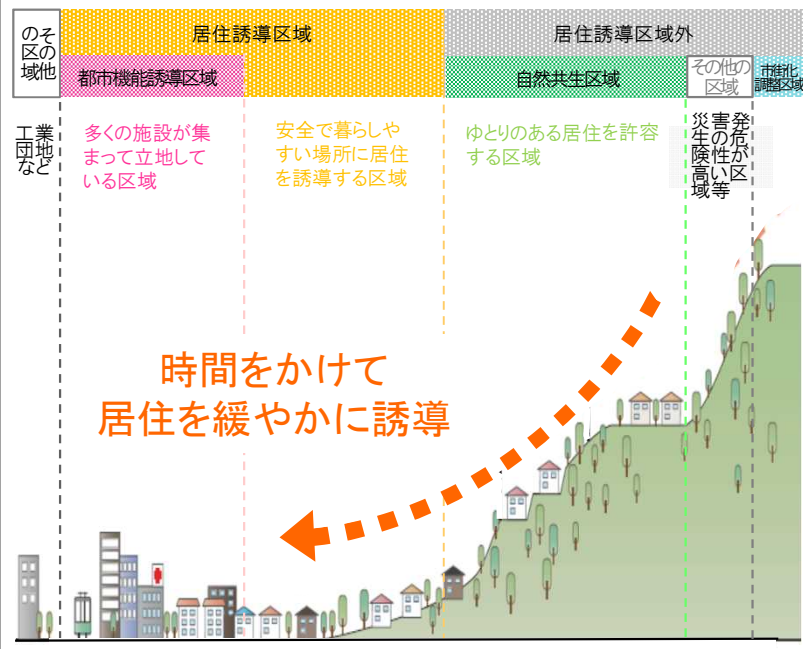


○斜面地の住環境改善や居住誘導により、高齢者でも安心・安全なコンパクトな都市を実現  
 ○情報・交通等の連携強化により、観光資源を最大限に活用し、人口減少下でも都市内消費を拡大

【居住誘導区域のイメージ】



都市内消費の拡大

・公共交通の人口カバー率約90%(R17目標値)

○九州新幹線(西九州ルート)の開通に向け、長崎駅周辺を整備。乗り継ぎの利便性向上等、交通結節機能を強化し、観光地や市街地への円滑な移動を確保。

【長崎駅近隣整備のイメージ】



※平成30年11月時点の構想イメージ

○駅近隣の工場跡地に民間投資によるスタジアムやホテルの整備を予定。

○まちなかで行われる官民の活動(街路等の整備、民間によるおもてなしトイレの整備、祭り・イベント等)を一覧できる工程入りの事業計画(まちづらプロジェクト)を策定し、一体的に推進。

観光消費額: 1,600億円(R2年目標)  
 【(参考) H26年:1,243億円】

安全・安心な居住の推進

・約5割の住民が居住する斜面地において、移動困難者対策、ゴミ収集等の公共サービスの効率化、安全の確保(土砂災害、緊急車両アクセス等)といった課題が山積。

住み替えしやすい環境づくり

- 株式会社(県指定居住支援法人)による取組み<民間>・福祉・介護・商店街等、多様な団体と連携し、高齢者等からの入居・生活相談を実施。まちなかの空き家を高齢者等へ紹介(住宅のマッチング)【媒介目標件数: 10件/年】
- ・IoT活用した見守りによる安全確保や地域連携による食の支援
- 空き家の情報提供・利活用により地域を活性化<市>【空き家バンク情報公開目標件数: 20件/年】

ゆとりある暮らしの維持

- 斜面住宅地に居住する外出が困難な高齢者や障害者に対して、階段昇降機等による移動支援、外出を促すイベントを企画<NPO法人>
- 斜面住宅地に斜面移送機や斜行エレベーターを設置し、高齢者などの移動を支援<市>

【高齢者の移動支援】



空間の有効活用による危険の軽減

○老朽危険空き家対策(所有者が行う除去への補助、寄付を受けて市が除去し公共空地を整備する事業)<市>【空き家の除去】

老朽危険空き家の年間除去件数  
 60件/年 (R2年目標)  
 【46件/年 (H26年実績)】



居住誘導区域内人口密度: 60人/ha (R17年目標) 【R17トレンド値】: 56.4人/ha

期待される効果

- 平地(地形的制約が少ない地域)への居住誘導による行政コスト削減額: 約22億円 (R17年度までの合計額)
- 人口減少化においても観光により消費額を約110億円増加 (R2年)